

令和4年度 学校評価の結果について

伊予市立港南中学校長 久保 雄

令和4年度の教育活動への4段階評価を7月と12月に、生徒・保護者・教職員の三者で実施しました。その結果を考察し、今後の教育活動の改善と充実のための取組を立案し、学校関係者評価委員の皆様から御意見をいただき、次のように取りまとめました。この学校評価を基に、令和5年度の教育活動をより一層改善・充実させてまいります。

※ 判定基準 A：平均3.2以上 B：平均2.6以上 C：平均2.6未満

※ 評価判定 上段は、7月の調査結果 下段は、12月の調査結果

重点 目標	具体的な取組内容	総合 判定	評 価			考察と今後の取組
			判定	対象	平均	
協働的な学習活動の推進	① ICT機器を積極的に活用した「学ぶ喜び・学んだ実感」のある授業の工夫	2.9 B ↓ 3.0 B	3.0 B ↓ 3.1 B	生徒	2.9 2.9	< 考 察 > ○①～③ともに、良好な評価結果である。 ○授業においてICT機器を積極的に活用し、深化追究につながる学習展開が行われている成果であると思われる。 ○新型コロナウイルス感染症に留意しながら、伝え合い、分かり合う場面を設定し、基礎・基本を確実に身に付けるために分かりやすい授業が行われていると生徒、保護者ともに感じたからだと考える。 ●④は、生徒、保護者、教員の三者ともに他の項目より低めの評価結果となっている。これは、学習が進むにつれ、学習内容が難しくなるが、生徒に「何を」・「どのように」勉強すればよいのかを十分に身に付けさせられていないからだと思われる。 < 今後の取組 > ・日々のワークシートや評価カード等を工夫し、振り返りの時間を授業の終末に位置付けた丁寧な指導を心掛け、生徒一人一人が問いに対する自分なりの解決が得られるよう取り組んでいく。 ・単元ごとに、目標を示し、その単元で、何を、どのように学び、何ができるようになるべきかについての学習の見通しを生徒と共有して学習を進める。 ・家庭学習に主体的に取り組ませるために、教育相談の中で学習方法や苦手教科のことなどを把握し、個別に指導していく。 ・学ぶ意欲を高める必要がある。そのために、様々な場面で自分の人生を自分で切り開いていくために、学ぶことへの切実感を持たせられる指導を工夫する。 【学校評議員より】 ○家庭学習の習慣は難しいところもあるが、質と量のバランスを考え、達成感を持たせてほしい。 ○睡眠時間の確保も重要であるため、生活習慣の確立についても継続的に指導してほしい。 ○タブレットを用いた学習が定着しているが、苦手意識を持っている生徒がいた。丁寧な指導をお願いしたい。 ○生徒は、先生の授業が好きになり、その教科を勉強することがよくある。生徒と教員の豊かな人間関係を築く取組を今後も継続してほしい。 ○授業での音声情報に加えて、視覚情報を効果的に組み合わせる等の工夫をして、分かる授業を展開してほしい。
	保護者			3.1 3.2		
				教員	3.1 3.2	
	2.9 B ↓ 3.1 B				生徒	
			保護者	3.0 3.1		
				教員	2.9 3.0	
			3.1 B ↓ 3.2 A		生徒	
	保護者			3.1 3.1		
				教員	3.0 3.3	
	2.7 B ↓ 2.7 B				生徒	
			保護者	2.7 2.7		
				教員	2.8 2.9	
主体的な生徒活動の推進		① 仲間と共にやり抜く場を設定し、やりがいや達成感を味わわせる工夫	3.1 B ↓ 3.1 B		3.1 B ↓ 3.3 A	生徒
	保護者	3.3 3.4				
		教員		2.8 3.3		
	3.3 A ↓ 3.2 A			生徒		3.3 3.3
		保護者		3.2 3.2		
				教員	3.5 3.3	
		3.1 B ↓ 3.2 A			生徒	3.2 3.3
	保護者			3.4 3.1		
				教員	2.7 3.4	
	2.9 B ↓ 2.8 B				生徒	2.9 2.8
		保護者				
				教員	3.0 2.8	

重点 目標	具体的な取組内容		総合 判定	評 価			考察と今後の取組
				判定	対象	平均	
充実した道徳教育の推進	①	互いを認め合い、励まし合う仲間意識を高め、安心できる支持的風土のある集団づくり	3.1 B ↓ 3.1 B	3.3 A ↓ 3.2 A	生徒 保護者 教員	3.3 3.3 3.2 3.3 3.2	< 考 察 > ○三者とも高い評価結果である。 ○①は、道徳通信などで家庭へ向けた情報発信をしたり、学級掲示で生徒の意見も掲載することで、授業後にも多様な考え方に触れ、他者理解を深めることにつながった。生徒は家族と道徳的価値について話し合う機会も持てたからだと考え。 ○②～④も、良好な評価結果で、毎回の授業では、道徳的価値について自分自身の生活や考え方を振り返る時間を設け、自分自身の生活や考え方と照らし合わせながら、真剣に考えることができたからだと考え。 < 今後の取組 > ○「考え、議論する」道徳科の授業を充実させるためには、道徳科の時間に限らず、全教育活動で、対話的な活動を積み重ねる必要がある。 ○発言したり、記述したりするなど自分の考えを表現するのが苦手な生徒もいる。道徳科に限らず、夢や目標を語り合う場を意図的に設定し、自己肯定感を高めたい。 ○道徳通信等については、今後も続けたい。 【学校評議員より】 ○アンケート結果を見ると、多くの生徒がクラスに安心感を抱いていることがうかがわれる。また、子ども同士が認め合うことができ、互いの信頼感も育ってきていると感じる。 ○道徳科の授業を中心に行われている発言できない、あるいは、できにくい生徒に対して、ワークシートに書かれた内容にコメントをつけていくことはとても大切なことだと思う。 ○振り返りの場面を見せてもらった。自分自身の生活や考え方を真剣に考えていくことは続けてほしい。
	②	有用感を感じ、人としての生き方について考え、議論する道徳の時間の指導の工夫		3.1 B ↓ 3.2 A	生徒 保護者 教員	3.3 3.3 3.1 3.2 2.9 3.2	
	③	互いに夢や目標を語り合う場や機会の充実による自己肯定感の醸成		3.1 B ↓ 3.1 B	生徒 保護者 教員	3.2 3.3 3.3 2.8 2.9	
	④	自己評価・他者評価による自己認識・他者認識の力の向上		3.0 B ↓ 3.0 B	生徒 保護者 教員	2.8 2.9 3.2 3.2 2.9 3.0	
信頼・期待される学校づくりの推進	①	地域の「ひと・こと・もの」とかかわる学習による生きる力につながる教育活動の工夫	3.0 B ↓ 3.0 B	2.7 B ↓ 2.9 B	生徒 保護者 教員	3.0 2.9 2.9 2.3 2.9	< 考 察 > ○②、③は、高い評価結果である。 ○学校ホームページが、タイムリーに更新され、学年通信・学級通信や道徳通信等で生徒の様子や考えが適切に発信されたことにより、信頼や安心につながっていると考え。 ●①は、他の3項目に比べると低い。2学期は、新型コロナウイルス感染症対策のため、活動に制約がありながらも、各地域での人権・同和問題学習やキャリア教育の一環として、1年生を対象に「働く人に学ぶ」や2年生を対象に「職場体験学習」を行い、ここ数年に比べると地域の「ひと・こと・もの」と関わる活動が増えているため、判定基準も増えてきている。 < 今後の取組 > ○今後とも、学校ホームページや学級通信等での情報発信に努めていく。 ○新型コロナウイルス感染症のため、保護者の学校に求めるニーズが、更に多様化してきている。保護者の願いや思いに適切な対応ができるよう取り組んでいく。 【学校評議員より】 ○教師一人一人が輝いてこそ、生徒も輝けると思う。引き続き、子どもたちに寄り添った御指導をお願いしたい。 ○引き続き、不登校生徒への関わりや家庭との連携を継続してほしい。 ○子どもを育てるためには、今後とも学校、家庭、地域で子どもの良き成長のために手を取り合い進めていきたい。 ○今後も、小中連携や引継を充実させてほしい。
	②	HP、学校便り等を通じた情報発信		3.2 A ↓ 3.2 A	生徒 保護者 教員	3.3 3.3 3.2 3.1	
	③	開かれた学校を意識し、保護者の願いや思いへの適切な対応		3.2 A ↓ 3.2 A	生徒 保護者 教員	3.4 3.3 3.1 3.2	
	④	小中連携の工夫と学校運営の見直しの実施		3.0 B ↓ 3.0 B	生徒 保護者 教員	2.9 2.9 3.1 3.2	